

第3期奈良県がん対策推進計画実施評価と4期計画への課題（案）

	取組の成果	取組の課題	4期計画策定に係る検討事項	
			課題	指標等の見直し
がん予防（たばこ）	<ul style="list-style-type: none"> ●喫煙率は全国1位を維持（減少率は鈍化） ●受動喫煙に合う人が減少（受動喫煙についての考え方が浸透） ●禁煙支援協力薬局数が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響 スパイロシフトの使用による啓発の中止 ●喫煙率の減少率が鈍化 ●受動喫煙対策についての理解促進と義務違反への対応強化 ●市町村や関係機関等、禁煙支援に関わる人の資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染対策を考慮した禁煙支援体制 ●20歳未満の喫煙防止教育の強化 ●行政機関や医療機関の率先した受動喫煙対策 ●企業との連携 ●市町村が主体となる普及啓発、禁煙支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終目標に対する評価指標の見直し ・禁煙支援取組評価指標（スパイロシフトの活用市町村）の見直し ・受動喫煙防止指標の数値設定
がん予防（健康的な生活習慣）	<ul style="list-style-type: none"> ●運動習慣を有する人の割合が増加 <p>※R1年度より、やさしおベジ増しプロジェクト推進事業が開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響 ・減塩対策に関するイベント等の開催機会の減少 ・減塩対策に取り組む登録店舗数の減少 ・評価指標となる調査が実施されていない ●男性の適正体重（BMI）が減少 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染対策を考慮した減塩対策 ●市町村における減塩対策の推進 ●生活習慣の改善（適正飲酒、適正体重についての啓発） 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終目標に対する評価指標の見直し ・適正飲酒、身体活動、適正体重に関する取組評価指標の検討
がん予防（感染症予防）	<ul style="list-style-type: none"> ●肝炎ウイルス検査の個別勧奨市町村数が増加し、受診者数も着実に増加 <p>※H31.3奈良県HTLV-1検査母子感染予防対策支援マニュアルの改正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●HPVワクチン接種について積極的勧奨の差し控えあり（R4.4から個別勧奨再開） ●ヘリコバクターピロリ感染についての普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ●肝炎ウイルス検査受診のさらなる啓発、勧奨 ●HPVワクチン接種の個別勧奨再開による体制の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・B型肝炎予防接種率に代わる指標の検討 ・HTLV-1、HPV等、個別施策の評価指標について検討
がんの早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ●がん検診受診率は上昇傾向 ●がん検診における早期がんの割合は、肺がんと子宮がんを除き増加 ●精検未受診率は、肺がんを除き低下 ●精検未把握率は、乳がん・子宮がんを除き低下 ●市町村がん検診チェックリスト実施率が80%以上の市町村割合が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響 ・受診控えによる受診率の低下 ・市町村における検診規模の縮小 ・がん検診従事者研修会の未開催 ●がん種による重点的取組み方法の検討 ・肺がん・子宮がん検診での早期発見割合が減少 ・肺がんの精検未受診率が上昇 ・乳がん・子宮がんの精検未把握率が上昇 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染対策を考慮した検診体制 ●啓発イベントや精度管理研修の方法の検討（オンライン・e-learning） ●がん検診受診率向上へのさらなる取組み ●県による市町村支援 ●働き盛り世代が受診しやすい検診体制の整備 ●精検未受診者への受診徹底への取組み ●がん種による検診精度管理の重点的取組み方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の次期がん対策基本計画に基づいた目標値の検討 ・石綿暴露者の健康管理の充実に関する評価指標の見直し
がん医療の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●がん患者が必要時サポートを受けられるチーム医療体制が整備 ●患者目線でのがん診療情報の提供によりがん患者の情報に関する満足度が上昇 ●がんゲノム医療提供体制が整備 ●小児・AYA世代のがん患者等の支援体制が整備（妊孕性温存療法研究促進事業の開始） 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響 資格取得研修の一部中止による専門職種配置割合が低下 ●がんネットならのアクセス数は増加しているものの認知度が低下 ●がん患者の口腔ケアに関する取組は実施しているが、評価指標の設定がなく効果が評価できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染対策を考慮した専門職種研修 ●がんネットならの周知啓発 ●R4年夏頃に予定されている、がん診療連携拠点病院の指定要件見直しを踏まえた取組みの検討 ●妊孕性温存療法研究促進事業の充実、周知啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者の口腔ケアに関する評価指標の検討 ・がん医療機能分化推進事業に関する評価指標の検討 ・小児・AYA世代のがん患者等の支援体制にかかる評価指標の検討

第3期奈良県がん対策推進計画実施評価と4期計画への課題（案）

	取組の成果	取組の課題	4期計画策定にかかる検討事項	
			課題	指標等の見直し
がんと診断されたときからの緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ●緩和ケアの認知度が上昇（診断時からの緩和ケアについての認識は低い） ●緩和ケアを受けて症状改善の自覚者が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響 <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチームにおける年間新規診療症例数および緩和ケア外来患者の年間新規診療症例数の減少 ・緩和ケア研修会受講率等が減少 ・緩和ケアフォローアップ研修が未実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染症対策を考慮した緩和ケア体制 ●緩和ケアに関する正しい理解の普及 ●医療従事者への緩和ケア研修会の充実、受講しやすい方法の検討 	緩和ケア提供体制に関する評価指標の見直し ※緩和ケアの認知度（アンケート）の質問項目の検討
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ●在宅療養支援診療所数の増加 ●在宅緩和ケアの希望者が受けられる環境が整いつつある 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅緩和ケア研修会等の実施が減少 ●地域連携バスの認知度は上昇するも、地域連携バスの適用件数は横ばい 	<ul style="list-style-type: none"> ●在宅緩和ケア研修会の充実、実施方法の検討 ●地域連携クリティカルパスのあり方や活用方法の検討 ●関係機関連携による在宅療養に向けての早期支援 	拠点病院の地域連携体制評価指標の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアバスを整備している拠点病院数 ・多職種カンファレンスの実施回数
相談支援及び情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ●がん相談支援センターの認知度や利用者が増加 ●ピアサポーターの養成数が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響 <ul style="list-style-type: none"> ・相談員研修の開催等が未実施 ・がん患者サロンの休止 ●ライフステージ（特に小児・AYA世代、老年期）特有の不安や悩みへの相談支援の評価の検討。 ●希少がんの相談支援の評価の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染対策を考慮した相談支援体制 ●ライフステージに応じた相談支援体制の充実（小児・AYA世代、老年期） ●がん患者がタイムリーに情報を得ることができるよう、患者の視点に立った情報提供の充実 	ライフステージに応じた相談支援体制の充実に関する評価指標の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・小児・AYA世代 ・老年期 希少がんの相談支援の評価の検討
がん患者の就労を含めた社会的問題	<ul style="list-style-type: none"> ●就労相談窓口の認知度が上昇 ●仕事と治療の両立支援体制が取られている事業所が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響 <ul style="list-style-type: none"> 就労相談や研修会等の開催数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ●必要な患者に支援が行き届くよう相談窓口の周知 ●就労相談担当者とはがん相談員との連携の強化 ●両立支援制度利用による企業のメリットについての情報提供 	両立支援の事例を活用した情報発信に関する評価指標の見直し
がん登録	<ul style="list-style-type: none"> ●がん登録データの精度およびがん登録運営の質が向上 ●がん対策の検討等にごん登録データの有効活用ができています 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響 <ul style="list-style-type: none"> がん登録担当者研修会が未開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●がん登録担当者のニーズにそった研修会の検討 ●がん登録情報を活用した県民への情報提供の充実 	がん登録の精度向上評価指標の見直し
がん教育・普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校、高等学校でのがん教育の実施率が上昇 ●小学校でのがんに関する教育の啓発実施率が上昇 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領の改訂（R2年度：小学校、R3年度：中学校、R4年度：高等学校）内容に基づいたがん教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領に基づいたがん教育について、教職員への研修や教材の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めざす姿」の表記の見直し ・最終目標に合わせた指標